

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

解答形式

(第1問) 論述式 (第2問) 論述式・記述式 (第3問) 記述式

分量・難易(前年比較) 分量(減少・変化なし・増加) 難易(易化・変化なし・難化)

第1問は20行で昨年と変わらず。第2問は昨年復活した4行がまた消え、2行のみ4問で、それに短答記述が4個であった。第3問は設問10問で解答数も10個で、1行論述は消えた。難易度は大局的には変化なし。

出題の特徴

論述総行数が28行で昨年より4行減った。第2問で4行論述がまたなくなった。
 なお、第1問での「モンゴル帝国」の出題は1994年にもあった。

その他トピックス

第1問は河合塾大学受験科のテキスト「総合世界史(論述編)」において同じテーマを扱い、ズバリの中であった。また、昨年度実施の「第1回東大即応オープン」と問題・解答ともほぼ重なりの中した。これを受験していた既卒生は難なく解けたであろう。また、夏期講習「ヒトとモノのネットワーク」では詳しく解説した内容である。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	論述	13～14世紀の モンゴル・ネットワーク	「ジャムチ」によりムスリム商人の活動範囲が広まったことをまず指摘する。「カネ」で銀や銅銭、「情報」でマルコ＝ポーロやイブン＝バトゥータなどに触れたい。また「博多」をもって日本を含めたグローバル世界史の形を表している。	やや難
第2問	論述 記述	国家の法と統治	(1) (b)は三部会を例に書けばよい。課税の協賛機関としたことを指摘する。	標準
第3問	記述	ユネスコの 世界記憶遺産	(3)は朴正熙と間違えぬこと。(4)に「政治家」とあるので張之洞だが、袁世凱も正解となろう。	やや易

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

政治・経済・社会・文化の諸分野で時代・地域を総合的に把握しようとする学習態度が望まれる。また毎年、出題形式が決まっているので、早めに通史の学習を終わらせ、過去問対策を行うことが重要である。